

公益社団法人 信和会 看護奨学生だより

2025年2月号

公益社団法人信和会 看護部長 鴨川聡子



まだまだ寒さが続く2月です。看護学生のみなさん、「一月居ぬる。二月逃げる、三月去る」とう慣用句を知っていますか。1月から3月はやる事が多く、あっという間に過ぎ去ってしまいますという意味です。看護学生にとっても忙しく大切な時期ではないでしょうか。特に卒年生にとって2月は、国家試験を控えて猛追している大事な時期ですね。他の学年も試験や実習を終えての進級といった大きな課題もありますね。4月を迎えた時に「あれ、この3カ月、何してたっけ」とならないように、先を見据えて、地に足を付けて、それぞれの課題に向き合ってください。3月には、看護学生向けの学習企画もありますので、またそこでみなさんにお会いできることを楽しみにしています。

京都民医連あすかい病院 事務長 小林智裕



今年は被爆（戦後）80年、阪神淡路大震災から30年の節目の年です。私達、民医連は平和が何よりも大切だと考えています。勝手に平和は来てくれません。自分たちの手で守って行かなければなりません。30年前の震災支援ではあすかい病院からもたくさんのスタッフが駆けつけました。その後の災害もしかりです。平和を大切にし、困った人に寄り添い、支えるのが私たち民医連の魂です。

あすかい病院も今年70周年の節目の年を迎えます。看護を志したみなさんと一緒に、患者さん、地域の方々、社会の健康を守って行きたいと思えます。

京都民医連あすかい病院 副看護部長 谷淵未生



今年度は、インフルエンザ感染症が大流行しました。病院でも昼夜問わず、症状のある患者さんの外来診療を行っています。入院はひっ迫状態。クラスターを防ぐため、患者さんの観察、基本の手指衛生など努力しています。また、職員が感染することもあります。学生のみなさまも、国家試験や実習をひかえる大事な時期ですね。試験に勝つ！感染症に勝つ！ための体づくりはできていますか？1日の始まりには朝ごはんを取り、身体を活動モードに切り替えましょう。日中の活動後は、夜の睡眠を大切に、免疫力を高めて寒い冬を乗り越えましょう。その先には、楽しみな春が待っています！

京都民医連あすかい病院 副看護部長 物部理奈



節分が過ぎても厳しい寒さが続きますが、体調は大丈夫ですか？

1年生は基礎看護学実習Ⅱで初めての長期間の実習。また、2年生は成人看護学実習Ⅰで看護過程の展開を頑張りましたね。そして、卒年生はいよいよ看護師国家試験です。おそらくこれまで経験したことがないぐらいたくさん努力をしてきたことだと思います。今は緊張していると思いますが、その頑張ってきた軌跡はあなたの人生の中でとても意味のあるものになります。自分を褒めてくださいね。不安もあると思いますが、4月に元気に入職してくれるのを楽しみに待っています。

1月31日(金)に2024年度医療介護活動交流集会を開催し、31名の方が参加されました。今回のテーマは民主的集団医療でした。5つの部門から日頃の医療活動の紹介と、テーマに即した発表がされました。

訪問看護ステーションたんぼぼからは、52歳男性の脳挫傷後の高次脳機能障害による半身麻痺の患者さんについての発表がありました。仙骨部に大きな褥瘡を抱えており、またアルコール依存症により食事が取れず低栄養状態に陥っているという難しい症例について、多職種が関わることで良い結果に繋がったという事例でした。

当初、アルコールをやめて食事を摂り、褥瘡の治療をしっかりと行うべきだと考えられましたが、障害福祉サービスは障がい者が長年の運動で勝ち取った権利であり、本人が望む飲酒を取り上げることはできないとのことで、皆で相談し、1日の飲酒量を決めて提供しました。

また、褥瘡予防マットは身体障がい者手帳(身障)2級では給付がおりず、金銭的な問題で導入が難しかったため、身障1級への等級変更手続きをし、給付がおりるようにしました。病院の認定皮膚・排泄ケア看護師(WOC)に相談し適切なマットの提案を受け、実際に在宅にも同行してもらいました。そして栄養面や除圧法なども皆で学び、実施しました。

主治医やヘルパー、生活コーディネーター、WOCと連携を取りながらアプローチすることで、最終的に褥瘡を完治させるに至った成果が報告されました。

あすかい病院 精神科デイケアの紹介



精神科デイケアは、うつ病や統合失調症等の精神科外来通院中の患者さんを対象にした生活支援を含めたりハビリテーション治療の場です。

医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士といった多職種が関わっています。その中でも看護師は患者さんの体調管理や服薬指導、精神科疾患以外の病状管理を担っています。

デイケアと聞くと高齢者が通う場所というイメージを持つ方もいると思いますが、20代前半から70代後半と幅広い世代の方が利用されています。

生活のリズムを作りたい、対人関係を学びたい、困ったことを相談したい、日中活動できる場所がほしい、社会参加の準備をしたいなど利用の目的は様々です。

散歩、卓球など運動系プログラムをはじめミーティング、手工芸、院外レクなど多様なプログラムを実施しています。

行政やハローワーク、就労支援事業所、サービス支援事業所等とも連携し利用されている方々の「〇〇がしたい」、「〇〇ができるようになりたい」という思いの実現をお手伝いしています。



あすかい病院 健診センターの紹介

あすかい病院健診センターの保健師・看護師より健診について紹介します。

健診センターでは、健診医師、医療事務スタッフ、保健師、看護師が所属しており、地域の皆様の健康づくりを多職種で連携し、取り組んでいます。



健診センターの保健師・看護師は、健康診断や人間ドックなどに来られた受診者さんに対して、問診、身体測定、血圧測定、視力測定、検査・診察の介助を行うのが主な仕事です。その他に、保健指導や健康相談、健康診断の結果で医療が必要な方への受診勧奨なども行っています。

また、禁煙外来、産業医面談（ストレスチェック）、健康増進などの啓発活動も行っています。受診者さんが安全に安心して、スムーズに採血や検査を受けることができるように、きめ細やかな気配りでいち早く異常を察知できるよう注意深く観察を行っています。

現在、医療においては「病気にかかってから治療する」のではなく、重篤な疾患に繋がるリスクを未然に摘み取る「予防医学」の必要性が高まっています。

日本人の死因の上位を占めるがん、心疾患、脳血管疾患、そして物質的な豊かさの拡大と相反して増える生活習慣病や不安障害（うつなど）、高齢化社会で増加の一途をたどる寝たきり、認知症など。

医学の進歩とともに、蘇生、寛解、治癒へと導くことができる症例が増えた一方で、「もっと早く気づいていれば」「定期的な検診を受けていれば」という事例が多いのも実情です。



受診者さんから「早期に発見してくれてありがとう」「あの時に見つけてもらえたから、今の自分がある」「生活習慣の改善に取り組んでメタボが解消できたよ」「アドバイス、今も続けているよ」と報告を受けた時は、病気の予防に関われたことを実感でき、喜びとやりがいを感じています。

健診センターでは、受診者さんの健康に関する悩みや相談に耳を傾け、受診者さんが自立的に健康活動に取り組み、一人ひとりが長期的に健康に過ごせるようなサービスが提供できるように、日々奮闘しています。

皆さんに少しでも健診センター、予防医学に興味を持って頂けたら嬉しいです。

「予防に勝る治療はなし」「健康寿命をのばす」に着目して、年に1回の健診という短い時間を最大限に生かせるように、皆さんの笑顔と一緒に健康づくりのサポートができる日を楽しみにしています。

あすかい病院 キラッと看護の紹介



緩和ケア病棟に入院されていた患者さん。

診断から半年ほど闘病されていましたが残念ながら全身状態の悪化があり、積極的な治療は終了となりました。その後 2 ヶ月間ほど自宅で穏やかに過ごされた後、緩和ケア病棟へ入院されました。

奥さんと息子さんは毎日のように面会に来られていましたが、入院当初より「息子には変に気を使わせたくない」と病気や死期が近いことは伝えない方針でした。そこで、本人の気持ちも大切にしつつ、一方で息子さんのこれからの人生を考えた時に、しっかりお別れすることも大切であるとお伝えしました。

奥さんと二人で、もう一度「親」として息子にできることを考え、主治医も一緒に、息子さんの年齢にあわせて病気や最期について説明されることになりました。

もちろん息子さんは不安や悲しみでいっぱいです。でもそれは当たり前前の反応であることをお二人と共有し、医療スタッフもサポートしました。



奥さんは息子さんの動揺をしっかりと受け止めておられたように思います。

誕生日には、奥さんと息子さんが考えたサプライズ誕生日会を開催しました。

会話も難しい病態で、翌日もかなり苦痛は強くなられていましたが、後で「誕生日会はとてもよかった」ととても嬉しそうなお顔で話されました。

誕生日会より 4 日後、奥さんと息子さん、そしてご友人に見守られながら亡くなられました。2 枚の写真は看護師がご家族ケアの一つとして、息子さんにむけて作成した絵本です。お父さんが亡くなられても、お父さんとの暖かい思い出が残るように気持ちをこめて作りました。

後日、奥さんが病棟に挨拶に来られ、息子さんは病棟では泣かなかったけれど、その日の晩に過呼吸になるほど号泣した後、今は落ち着いて元気に過ごしていると教えていただきました。

今後もグリーンケア相談室や子供のための遺族会「あすかいキッズ夏祭り」などを通じて繋がりが継続していきます。